

◆第10週（3月7日（月）～3月13日（日））

週明けから続いていた京都へ出張から帰京すると、書籍が2冊届いていた。いずれも知人である専門家の先生の自著である。

塩見も執筆した書籍を友人や知人に贈呈することは日常だが、逆にこのように書籍を頂くことも多い。早めに軽読してお礼のレターを送るようにする。

そういえば、贈呈することで相手先の対応が明確になる。すぐにショートメールで連絡をくれる友人や、しばらくしてから丁寧な礼状を頂く知人も多い。ただ全く反応を示さない人もそれなりに存在する。

本を執筆することには相当の時間を要し、更に、本を郵送するためにはコストも要している。別に感謝してくれと言うわけではないが、全く無反応な人の気持ちには全く理解できないことは事実だ。

ただ、反応の早い（反射神経の鋭い）人やキチツとした文章でお礼状を出している人は、仕事の上でも結果を出している人が大半である。逆に言えば、反応のない（つまり、無視をしている）人はそれなりの人であることも事実だろう。人間力を垣間見ることができるとい意味では、リトマス試験紙になっている。人は何でもないようなところをしっかりと見ているため、毎日の生活の仕方が大切だということだ。

10日（木）は1945年の東京大空襲による惨禍（日本の木造住宅を全焼させるために作られた特殊爆弾を32万発投下された）から77年目。翌日（11日）は2011年の東日本大震災から11年目と、黙祷すべき日が続く。黙祷すべき事件は、今、現在も起こっているだけに気分がすぐれないのだ。

10日の午後は、クライアント企業の新事業に関するビジネスモデルの構築と人材研修を開催する。一つのケーススタディを作成し、そのケーススタディをどのように考えてどういう事業を進めていくかをそれぞれのチームに考えさせる研修を行った。さすがに会社から選出された人材が多いため、考え方の範囲が広がっていく。

また、この事業にキャッチコピーを付けて、今後、浸透させるための商標登録を弁理士に依頼する。商標や実用新案はこれからのビジネスでは必須と言えるだろう。

今年は、新型コロナウイルス感染症によって2年間、中止に追い込まれた「京都老舗体感ゼミナール®」を開催することを決定した。楽しみにしている経営者も多く、雑談の中で既に2人から参加の申し込みを頂いている。

3月10日から14日にかけて「七十二候」では「桃始めて笑う」という表現が使われている。確かに、隣家の庭の紅梅が真っ盛りだ。目覚めに愉しませていただいている。

弥生月 黙祷すべき日よ 数多^⑩